

婚姻関係における Mismatch と主観的幸福度の関係性

1210496 中村 優

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 概要

あらゆる二者が中長期的に関係する際、重要なのは相性である。同様に、婚姻関係における夫婦間の相性に対する認知も幸福な人生を送る上で重要だと考えられる。しかし、既存研究において夫婦間の相性と幸福度の関係性に資する分析は行われていない。本研究は、婚姻関係においてどのような要因が夫婦間の「私はパートナーと Match している、していない」といった主観的認知に影響を与えているのか、そして、Match (or Mismatch) の認知が、どの程度幸福度と関連性を有するのか、分析する。247 組の夫婦を対象にアンケート調査・データ収集し、統計解析を行った。結果、夫の Inquisitiveness (新しい、又は、これまでとは異なる環境や性質に対する知的好奇心・柔軟な認知力) と、夫婦間で家族計画について話し合いの時間を十分にとれているか否かの認知が「パートナーと Match している」と考える決定要因である事が分かった。上記二項目に加え、夫婦間 Mismatch の類型 (双方、片方 Mismatch 等) と幸福度との関係性を分析した所、各変数が主観的幸福度に大きな影響を与える事、且つ、夫婦間で双方 Mismatch と認知している場合には幸福度への負の影響が大きい事も明らかになった。纏めると、男の気質 Inquisitiveness と家族計画について夫婦間で話しあっていると云う認知は夫婦間の関係性を Match へと導くだけでなく、直接的・間接的にも個人の幸福度を高める、という事が示唆された。

2. 序論

生涯を共にするパートナー、養育する子供、所属する組織、共に働く仲間達との相性は、幸せな人生を送るうえで極めて重要である。人々は社会活動を送る上で、就職先の選定や結婚など、互いの相性について不確実な状態で意思決定を行う。それらの意思決定を行った後、相性に関する認知は、ある程度の時間の長さを経て主観的に形成されていく。人生の幸福度において、最も影響を与える相性は、婚姻関係におけるパートナーとの相性であろう。本研究は、婚姻関係においてどのような要因が、夫婦間の「私はパートナーと Match している、していない」といった主観的認知に影響を与えているの

か、そして、Match (or Mismatch) の認知が、どの程度幸福度と関連性を有するのか、分析する。

これまで夫婦関係・結婚の状態に着目した研究は、主にその満足度に焦点を当てている。何組かの婚姻カップルに中長期的にインタビューし、分析を試みる定性的なアプローチと、被験者を多数集めてアンケート調査により結婚満足度尺度を計算する定量的アプローチが存在する。Tavakol et al. (2020) らは、定性的インタビュー手法と grounded theory を用いて、夫婦満足概念が文脈に強く影響される多次元概念である事、そして、如何に家族計画について夫婦で共有出来るかが、幸福な結婚において重要である事を示した。

定量的アプローチで使用する夫婦関係満足度尺度は複数存在する。大別すると、結婚・夫婦関係の諸側面を複合指標によって測定する尺度と、結婚・夫婦関係に対する総合的な評価を単一指標によって測定する尺度がある (柏木, 2003)。どちらの尺度を使用するにしろ、欧米では婚姻期間の経過と共に夫婦関係満足度は U 字型に変化すると考えられて来た (Anderson, Russell, & Schumm, 1983)。しかし、近年では、VanLaningham et al. (2001) らを中心に、夫婦関係満足度は必ずしも U 字型に経年変化するのではなく、様々な変化パターンとなり得る事も確立されている。日本においても、パネルデータ分析において、夫婦関係満足度の変化は U 字型にはならず、結婚から数年の間に満足度が急激に下がり、その後は一定の割合で低下する等 U 字型にはならないと結論付けられている (永井, 2011)。

夫婦関係満足度と個人の幸福度に関する研究も幾つか存在する。石森ら (2017) の研究において、夫婦関係満足度と個人の幸福度は、個人レベルの統計モデルにおいて正の相関を有しているものの、2 者関係レベルのモデルでは正の相関を有していないと云う事が報告されている。Chapman and Guven. (2016) は、米国、英国、そして、ドイツの国勢調査データを用い、結婚満足度と幸福度の関係性を分析している。その論文で、自己評価が低い結婚生活を送っている人々は、時として未婚の人々より不幸である事、しかし、結婚満足

度と幸福度に関して全体的に強い正の相関はない、と結論付けている。

既存研究では夫婦関係や婚姻関係における満足度の変化が、世代による結婚観の違いや、時代背景、婚姻年数によって変化する事、そして、結婚満足度と個人の幸福度が必ずしも強い正の相関を持つものではないことが確認されている。一方、既存研究において、夫婦間の相性と幸福度の関係性に資する分析は行われていない。婚姻関係におけるパートナーとの相性の認知は、ある程度の時間の長さを経て形成される概念として考えられ、且つ、結婚満足度尺度等よりも安定的なものであると考えられる。そこで、本研究では、婚姻関係においてどのような要因が、夫婦間の「私はパートナーと Match している、していない」といった主観的認知に影響を与えているのか、そして、その Match (or Mismatch) の認知が、どの程度幸福度と関連性を有するのか、分析する。

3. 研究手法

2020年12月21日から27日にかけて、(株)クロスマーケティングのリサーチ専門データベースに登録されたモニターを対象にアンケート調査を実施した。被験者として調査時点で子持ち夫婦を対象として選定した。最終的に247組の夫婦(夫の平均年齢43.5歳、標準偏差8.63、妻の平均年齢42.1歳、標準偏差8.55)から有効な調査の回答が得られた。夫と妻、それぞれのメールアドレスにアンケート画面が届き、各自のデバイスを用いて回答するようになっているため、被験者はパートナーの答えを知る事が出来ない。

本研究では Lyubomirsky と Lepper によって作成された、4項目から成る主観的幸福度尺度を使用した。1つ目の項目は、幸福度に関して個人の主観による絶対的な評価を尋ねている。「非常に幸福な人間ではない」から「非常に幸福な人間」までの7点尺度により評価を求めた。2つ目の項目は他者と比べた際の幸福度に関して、主観による相対的な評価を尋ねている。「より幸福ではない」から「より幸福である」までの7点尺度に評価を求めた。3つ目と4つ目の項目は、幸せな人や不幸な人の一般的な説明を述べている。被験者は自分自身について最もよく表していると思う説明を、「全く当てはまらない」から「非常に当てはまる」までの7点尺度に評価を求めた。全体的な主観的幸福を計算するために、4つ目の項目の平均を計算する。

Busby and Holman. (2009)で採用されている Gottman Conflict Styles の Matching 評価方法の1つ、Self-Self match を参考に、

本研究で使用する Match と Mismatch の概念を定義する。本研究では、時間経過と共に形作られていく、パートナーとの総体的な相性についての主観的認知を、婚姻関係における Match、若しくは、Mismatch と提案する。本研究では、夫と妻双方向で「パートナーとの相性が良い」と認識し合っている状態を Match とし、それ以外のあらゆる可能性については Mismatch とする。6項目の尺度を作成し、尺度に対する回答と共に理由について述べる欄を設けた。1つ目の項目と2つ目の項目は、パートナーの負担する家計や、お金と時間の使い方について満足しているか、主観的な認知について尋ねている。「非常に満足している」から「全く満足していない」までの5点尺度により評価を求めた。3つ目の項目はパートナーが自身について(仕事の状態や、好み、性格、これからの人生設計、パートナーの家族親戚との関係性・抱く感情などについて)十分に理解してくれているか、主観的認知について尋ねている。「非常に理解してくれている」から「全く理解してくれていない」までの5点尺度により評価を求めた。4つ目の項目は育児について、妻は、出産後、パートナーから受けてきたサポートに満足しているかどうか、夫は、自分のできる十分なサポートを妻にしてきたかどうか、尋ねる。どちらも「非常に満足している(とてもサポートしてきた)」から「全く満足していない(全くサポートしていない)」までの5点尺度により評価を求めた。5つ目の項目はパートナーを人として尊敬できる存在か尋ねる。「とても尊敬している」から「全く尊敬していない」までの5点尺度により評価を求めた。

1項目から5項目までは、回答者に、婚姻関係の時間経過とともに形作られてきたパートナーとの相性における主観的認知を想起させるため、作成した。6つ目の項目でパートナーとの総体的な相性の度合いに対する主観的認知について尋ね、「とても Match している」から「全く Match していない」までの5点尺度により評価を求めた。定義に基づいて、すべての夫婦をまず Match と Mismatch に大別した。次に、Mismatch をより細かく分類する。Both-side Mismatch(双方 Mismatch: 夫と妻の双方が婚姻関係の相性を Mismatch と認知)、One-side Mismatch(片方 Mismatch: 夫婦のうち、どちらか一方が Match と認知し、もう片方が Mismatch と認知)、Other (Neutral: 夫婦のうち少なくとも片方が「どちらでもない」を選択)の3つに分類した。

家族計画について夫婦間で話しあっていると云う認知が、どのくらい主観的幸福度や、婚姻関係における主観的 Mismatch に関係しているのかを調べる事も本研究で企図した。当該項目において「こ

れからの家族計画(子育ての方針・仕事・資産計画・老後)について、パートナーと議論する時間を十分に取れていますか?」と尋ねた。2件法を用い、「はい」と答えた場合は、1とし、それ以外を0として計算した。

新しい、又は、これまでとは異なる環境や性質に対する知的好奇心・柔軟な認知を計る尺度として、平山と楠見(2004)によって作成された批判的態度思考尺度における「探求心・好奇心を表す inquisitiveness」の10項目を使用した。各項目において、「非常に当てはまる」から「非常に当てはまらない」までの7点尺度に評価を求め、すべての項目を逆にコード化し、その和を計算した。社会人口統計的項目として、Age、Household Income、Education、Family structure について回答を求めた。

上記したデータを使用して、(i) 婚姻関係においてどのような要因が、夫婦間の「私はパートナーと Match している、していない」といった主観的認知に影響を与えているのか、(ii) Match (or Mismatch) の認知が、どの程度幸福度と関連性を有するのか、統計分析を行う。(i) のリサーチクエスチョンについては、夫婦ペアデータを用いて、Match or Mismatch を被説明変数としてロジット回帰分析を行う。(ii) のリサーチクエスチョンについては、個人レベルの幸福度尺度のデータを被説明変数とし中央値回帰分析を行う。

4. 研究結果

有効であると確認された 247 組の夫婦の回答をペアデータとして用いた。分析に用いた変数の定義を Table. 1 に示した。夫婦全体、および夫と妻それぞれのデータにおける統計要約を Table. 2 に示した。夫婦全体、および Match グループと Mismatch グループに分けた統計要約を Table. 3 に示した。Table. 3 をみると、Happiness (幸福度) の平均値は、Match が 5.00、Mismatch が 4.13、Inquisitiveness (新しい、又は、これまでとは異なる環境や性質に対する知的好奇心・柔軟な認知力) は、Match が 49.94、Mismatch が 47.57 となっており、Match に比して、Mismatch のスコアが低いことがわかる。Perception for future planning (家族計画を十分に話し合えているという認知) をみると、Match では 0.69、Mismatch では 0.32 となっており、Match に比して Mismatch は -0.37 スコアが低いことがわかる。Table. 4 に示した Happiness (幸福度) に対する Match と Mismatch 別のヒストグラム、ボックスプロットを見ても、Happiness (幸福度) に Match と Mismatch の違いが強く影響を与えていることは明らかである。

婚姻関係における夫婦間の相性に対する主観的認知 (Match または Mismatch) の差に、どういった要因が影響しているのかを明らかにするため、ロジット回帰分析を行った。夫と妻、それぞれの Perception for future planning、Inquisitiveness、Age (年齢)、Education (最終学歴) と Household income (世帯年収) を説明変数に置き、Match (夫と妻双方向で「パートナーとの相性が良い」と認識し合っている状態) を被説明変数とした。各変数における限界効果は、Table. 6 より以下のように解釈することができる。Perception for future planning において、夫側の限界効果は、統計有意 1% で 0.227、妻側の限界効果は統計有意 1% で 0.286 である。また、Husband's inquisitiveness は統計有意 5% で 0.008、Household Income は 10% 有意で 0.067 であった。この結果から、夫の家族計画の話し合いを十分にしていると云う認知(妻の家族計画の話し合いを十分にしていると云う認知)は、十分に話をしていないと云う状態に比して、23%(29%) も Match の確率を上昇させることが示された。同様に、夫側の Inquisitiveness が 1 ポイント上昇すると Match の確率を 1% 上昇することが示された。

Mismatch を細分化した、Both-side Mismatch (夫と妻の双方が婚姻関係の相性を Mismatch であると認知している状態)、One-side Mismatch (夫婦のうち、どちらか一方が Match と認知し、もう片方が Mismatch であると認知している状態)、Other (夫婦のうち少なくとも片方が「どちらでもない」と認知している状態)の中で、どのタイプが Happiness (幸福度) をより下げるのか明らかにするため、中央値回帰分析を行った。中央値回帰分析を選択した理由としては、Table. 6 に示したヒストグラムを見ても明らかであるように、被説明変数に置いた主観的幸福度は、上限が 7、下限が 1 であり、正規分布をとらないためである。

Both-side Mismatch、One-side Mismatch、Other、Perception for future planning、Inquisitiveness、と各社会統計学的変数を説明変数におき Happiness を被説明変数とした。各変数における係数は、Table. 7 より以下のようにそれぞれ解釈できる Both-side Mismatch は統計有意 1% で -1.560、One-side Mismatch は統計有意 5% で -0.515、Other は統計有意 1% で -0.493 であった。また、Perception for future planning は統計有意 1% で 0.407、Inquisitiveness は統計有意 1% で 0.019、Age square は統計有意 10% で 0.001 であることがわかった。この結果から、夫と妻、双方で主観的に Mismatch であると認知している場合、Match していると認知している Baseline に比して、幸福度のスコアを 1.56 下げ

る事、そして夫婦のうち、どちらか一方が Match と認知しもう片方が Mismatch であると認知している、又は、夫婦のうち少なくとも片方が「どちらでもない」と認知している場合、スコアを 0.52、そして、0.49 下げることが示された。一方、家族計画について夫婦間で話し合いの時間を十分にとれていると云う認知は、十分に話をしていないと云う状態に比して、スコアを 0.41 上昇させる事、そして、Inquisitiveness が 1 ポイント上昇すると幸福度が 0.02 上昇する事が示された。

日本社会では、歴史的にみても、女性が家庭で特別な役割を持ち、自治権を担ってきた。現代において、女性の高学歴化が進み、社会進出が進んでも、家庭内で女性が担う役割は変わっておらず、依然として、女性が家事や子育てのかなめであるという考え方が一般的である。本研究において、夫の Inquisitiveness (知的好奇心・柔軟な認知力)のみが、婚姻関係の相性に対する主観的認知に影響を与えているということは、それぞれの家庭で就業状態や家事の役割分担が異なっていたとしても、妻のやり方や考え方(家事や子育て、仕事と家庭のバランスについて)を受容する夫の力が高いかどうか、重要であるとも考えられる。Tavakol et al. (2020)は、grounded theory を用い、夫婦間で、家族をリラックスした状態に進化させるための目標を立て、それに向けて共行動を取れることは、夫婦関係の満足度を達成することに影響を与えていると示した。Van Tilburg and Igou. (2019)らは、より明るく、幸福な未来をえがくことや、想像することは、人に人生の意義を見出すよういざなうことを報告した。以上から、夫婦間で未来の家族計画について十分な話し合いができていないと認知している、つまり、パートナーとの話し合いによって、現状の家族の在り方、および現状から将来への方向性に意義を見出せている場合、夫婦の相性をより良い方向へと導き、個々の幸福度も高めることができると解釈できるのではないだろうか。

5. 結論

本研究は、婚姻関係においてどのような要因が夫婦間の「私はパートナーと Match している、していない」といった主観的認知の決定要因となっているのか、そして、どういった種類の Mismatch が主観的幸福度に強い影響を与えるのか、検証した。分析の結果、婚姻関係の相性において、家族計画について話し合いの時間を十分にとれていると個々で認知している場合、また、夫側の違いに対する知的好奇心・柔軟な認知力が高い場合、主観的認知を Match へ導く

ことが示唆された。

婚姻関係の相性に対する主観的認知において、Mismatch であると認知している場合でも、その類型によって、幸福度へ与える負の影響は変化することが確認された。Both-side Mismatch (夫と妻の双方が婚姻関係の相性を Mismatch であると認知している状態)の場合、Match していると認知している状態に比して最も主観的幸福度を下げることが確認されており、次いで One-side Mismatch、Other の順で、主観的幸福度を下げることが示唆された。一方、Inquisitiveness が高い人ほど、幸福度も高い傾向にあることが確認された。同様に家族計画について夫婦間で話し合っていると云う認知は、話し合っていないと云う状態に比して幸福度を上昇させることが示唆された。纏めると、特に男性の気質 Inquisitiveness と家族計画について夫婦間で話し合っていると云う認知は夫婦間の関係性を Match へと導くだけでなく、直接的・間接的にも個人の幸福度を高める、という事が示された。

本研究のアンケート項目では、結婚に至った経緯や、結婚するまでにパートナーとのどのくらいの時間を共有したかについて、考慮されていない。「結婚」という意思決定を行った後、時間経過と共に形作られていく、夫婦間の「私はパートナーと Match している、していない」といった主観的認知の違いに、それらが影響するかどうかについて、再考する余地がある。これからの研究では、恋愛結婚が多数派を占める社会において、結婚するまでに共有した時間の長さが、結婚後の相性に対する認知にどのように影響するのかを考慮したアンケート項目の作成が必要であると考えられる。また、見合い結婚、つまり本人の意思を反映していない、デザインされた結婚が多数派を占める社会や、性の多様性が認められた社会では、本研究と異なる結果が得られる可能性も考えられる。だが、いずれにしても、婚姻関係の相性に対する主観的認知を夫婦ともに Match している状態へと導くことは、個人がより幸せな人生を歩んでいくために重要である、と考えられる。本研究の結果に基づけば、夫婦共々お互いに Match していると感じ合い、且つ、幸福な人生を送る為に重要な事は、Inquisitiveness、つまり、新しさや違いをどれだけ互いに許容しそれらに対し好奇心を保持出来るのか、そして、家族計画を共にどれだけ話し合い実施するのか、と云う事の 2 点に集約される、と言えよう。

6. 参考文献

1. 赤澤淳子. (2019). 夫婦関係満足度の経年変化-U字型変化と規定要因. *Journal of the Faculty of Human Cultures and Sciences of Fukuyama University*, 19:14-30.
2. 石盛真徳, 小杉考司, 清水裕士, 藤澤隆史, 渡邊 太, 武藤杏里. (2017). マルチレベル構造方程式モデリングによる夫婦ペアデータへのアプローチ—中年期の夫婦関係のあり方が夫婦関係満足度, 家族の安定性, および主観的幸福感に及ぼす影響. *実験社会心理学研究*, 56:153-164.
3. 柏木恵子, 平山順子, (2003). 結婚の“現実”と夫婦関係満足度との関連性—妻はなぜ不満か. *心理学研究* 74:122-130.
4. 永井暁子, (2011). 結婚生活の経過による妻の夫婦関係満足度の変化. *社会福祉* 52:123-131.
5. 平山るみ & 楠見孝. (2004). 批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響 証拠評価と結論生成課題を用いての検討. *教育心理学研究* 52:186-198.
6. Anderson, S., Russell, C., & Schumm, W. (1983). Perceived marital quality and family life-cycle categories: A further analysis. *Journal of Marriage and Family*, 45:127-139.
7. Busby, D., & Holman, T. (2009). Perceived match or mismatch on the Gottman conflict styles: Associations with relationship outcome variables. *Family Process*, 48:531-545.
8. Chapman, B., & Guven, C. (2016). Revisiting the relationship between marriage and wellbeing: Does marriage quality matter? *Journal of Happiness Studies*, 17:533-551.
9. Lyubomirsky, S., & Lepper, S. (1999). A measure of subjective happiness: Preliminary reliability and construct validation. *Social Indicators Research*, 46:137-155.
10. Tavakol, Z., Moghadam, Z., & Nasrabadi, A. (2020). Marriage, a way to achieve relaxing evolution: A grounded theory investigation. *Journal of Education and Health Promotion*, 9:1-8.
11. Van Laningham, J., Johnson, D., & Amato, P. (2001). Marital happiness, marital duration, and the U-shaped curve: Evidence from a five-wave panel study. *Social Forces*, 79:1313-1341.
12. Van Tilburg, W., & Igou, E. (2019). Dreaming of a brighter future: Anticipating happiness instills meaning in life. *Journal of Happiness Studies*, 20:541-559.

Table1. Variable definitions

Variables	Descriptions
<i>Dependent variables</i>	
Happiness	Lyubomirsky, SonjaとLepper, Heidi Sが作成した、主観的幸福度尺度の4項目（7件法）を使用した。 （A measure of subjective happiness: Preliminary reliability and construct validation Lyubomirsky, Sonja; Lepper, Heidi S Social Indicators Research; Feb 1999; 46, 2; ABI/INFORM Global pg. 137）
Match	「婚姻関係におけるあなたとパートナーの相性は総体的にマッチすると思いますか」という設問において、夫と妻の両方が、「1=とてもマッチしている」または「2=マッチしている」を選んでいる場合、1とし、それ以外を0とする
<i>Independent variables</i>	
Mismatch (Base group = Match)	
Both-side Mismatch	「婚姻関係におけるあなたとパートナーの相性は総体的にマッチすると思いますか」という設問において、妻と夫の両方が「4=マッチしていない」、「5=全くマッチしていない」の中から回答を選んでいる場合、1とし、それ以外を0とする
One-side Mismatch	「婚姻関係におけるあなたとパートナーの相性は総体的にマッチすると思いますか」という設問において、妻と夫のうち、どちらかが「1=とてもマッチしている」または「2=マッチしている」を選び、もう一方が「4=マッチしていない」または「5=全くマッチしていない」を選んでいる場合、1とし、それ以外を0とする
Other	1=「婚姻関係におけるあなたとパートナーの相性は総体的にマッチすると思いますか」という設問において、妻と夫のうち、どちらかが「3=どちらともいえない」を選んでいる場合、1とし、それ以外を0とする
Perception for future planning	「これからの家族計画(子育ての方針・仕事・資産計画・老後)について、パートナーと議論する時間を十分に取れていると感じていますか?」という設問に対し、「はい」を選んでいる場合、1とし、それ以外を0とする。
Inquisitiveness	平山るみ・楠見(2004)が作成し妥当性が確認された、批判的態度思考尺度における「探求心」の10項目(7件法)を使用。 (平山るみ 楠見考 (2004) 「批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響」,教育心理学研究,52,186-198)
Gender	0=女性 1=男性
Age	年次
Age square	年齢を二乗したもの
Household income	世帯年収を1から7まで分類。1=100万円未満、2=100万円以上～250万円未満、3=250万円以上～400万円未満、4=400万円以上～700万円未満、5=700万円以上～1000万円未満、6=1000万円以上～2000万円未満、7=2000万円以上とする。
Education	最終学歴を1から6まで分類。1=中学卒業、2=高校卒業、3=専門学校、短期大学、高専卒業、4=学部卒、5=博士課程前期卒業、6=博士課程後期卒業とする。
Family structure	現在の家族形態について、0=拡大家族、1=核家族とする。

Table2.Summary statistics on husband and wife

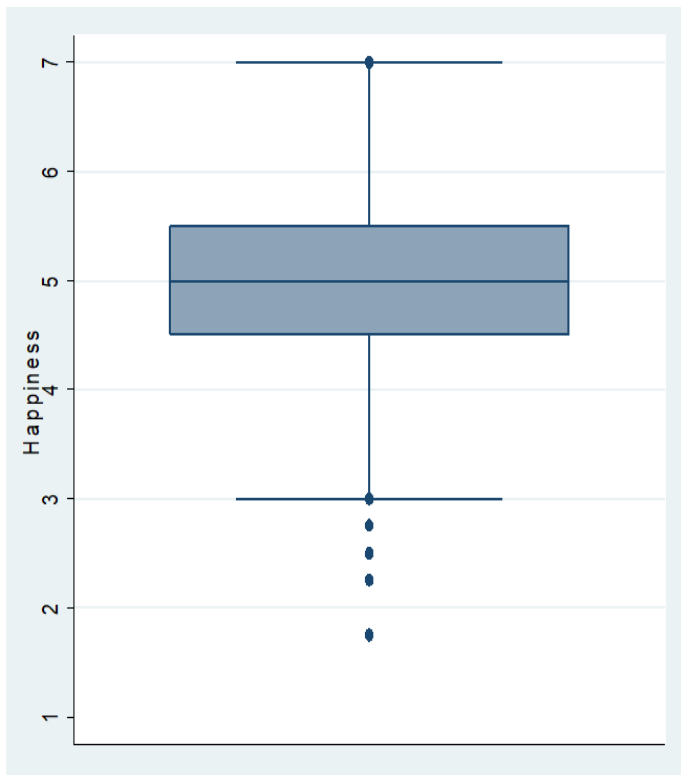
Variable	Husband					Wife					Overall				
	Mean	SD	Max	Min		Mean	SD	Max	Min		Mean	SD	Max	Min	
Happiness	4.70	1.12	7.00	1.25		4.57	1.01	7.00	1.75		4.64	1.06	7.00	1.25	
Match	-	-	-	-		-	-	-	-		0.59	0.49	1.00	0.00	
Mismatch	-	-	-	-		-	-	-	-		0.41	0.49	1.00	0.00	
-Both-side Mismatch	-	-	-	-		-	-	-	-		0.04	0.21	1.00	0.00	
-One-side Mismatch	-	-	-	-		-	-	-	-		0.06	0.23	1.00	0.00	
-Other	-	-	-	-		-	-	-	-		0.31	0.46	1.00	0.00	
Perception for future planning	0.54	0.50	1.00	0.00		0.53	0.50	1.00	0.00		0.54	0.50	1.00	0.00	
Inquisitiveness	50.33	11.52	70.00	14.00		47.61	11.58	70.00	18.00		48.96	11.61	70.00	14.00	
Age	43.50	8.63	62.00	26.00		42.10	8.55	59.00	26.00		42.80	8.61	62.00	26.00	
Household Income	-	-	-	-		-	-	-	-		4.46	1.04	7.00	1.00	
Education	3.27	1.08	6.00	1.00		2.81	1.19	5.00	1.00		3.04	1.16	6.00	1.00	
Family structure	-	-	-	-		-	-	-	-		0.86	0.35	1.00	0.00	
Sample size					247					247					494

Table 3. Summary statistics on match and mismatch

Variable	Match			Mismatch			Overall		
	Mean	SD	Min	Mean	SD	Min	Mean	SD	Min
Happiness	5.00	0.93	1.75	4.13	1.03	1.25	4.64	1.06	1.25
Perception for future planning	0.69	0.46	0.00	0.32	0.47	0.00	0.54	0.50	0.00
Inquisitiveness	49.94	11.93	18.00	47.57	11.01	14.00	48.96	11.61	14.00
Age	42.81	9.01	26.00	42.87	8.03	28.00	42.80	8.61	26.00
Household income	4.56	1.05	2.00	4.31	1.00	1.00	4.46	1.04	1.00
Education	3.07	1.17	1.00	3.00	1.15	1.00	3.04	1.16	1.00
Family structure	0.84	0.37	0.00	0.88	0.32	0.00	0.86	0.35	0.00
Sample size	290			204			494		

Table.4 Boxplot on Match and Mismatch

Match



Mismatch

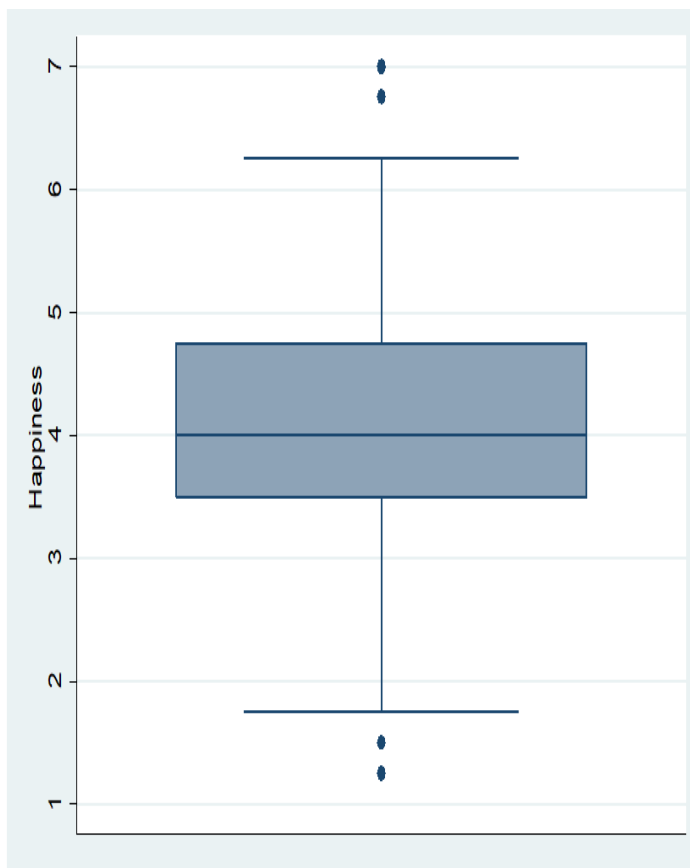


Table.5 Marginal effects coefficient of the independent variables on match in the logit regressions

	Match (Base group = Mismatch)		
	Model 1	Model 2	Model 3
<i>Independent variables</i>			
Husband's perception for future planning	0.250***		0.227***
(Base group = No perception)	(0.076)		(0.079)
Wife's perception for future planning	0.256***		0.286***
(Base group = No perception)	(0.076)		(0.081)
Husband's inquisitiveness		0.006**	0.008**
		(0.003)	(0.003)
Wife's inquisitiveness		-0.001	-0.003
		(0.003)	(0.003)
Husband's age		0.001	0.00004
		(0.009)	(0.001)
Wife's age		-0.004	-0.005
		(0.010)	(0.010)
Household income		0.077*	0.067*
		(0.036)	(0.039)
Husband's education		-0.015	-0.007
		(0.033)	(0.036)
Wife's education		0.014	0.013
		(0.029)	(0.032)
Family structure		-0.162	-0.146
		(0.099)	(0.108)
Sample size		247	

***1%有意、 **5%有意、 *10%有意

Table.6 Histogram of happiness

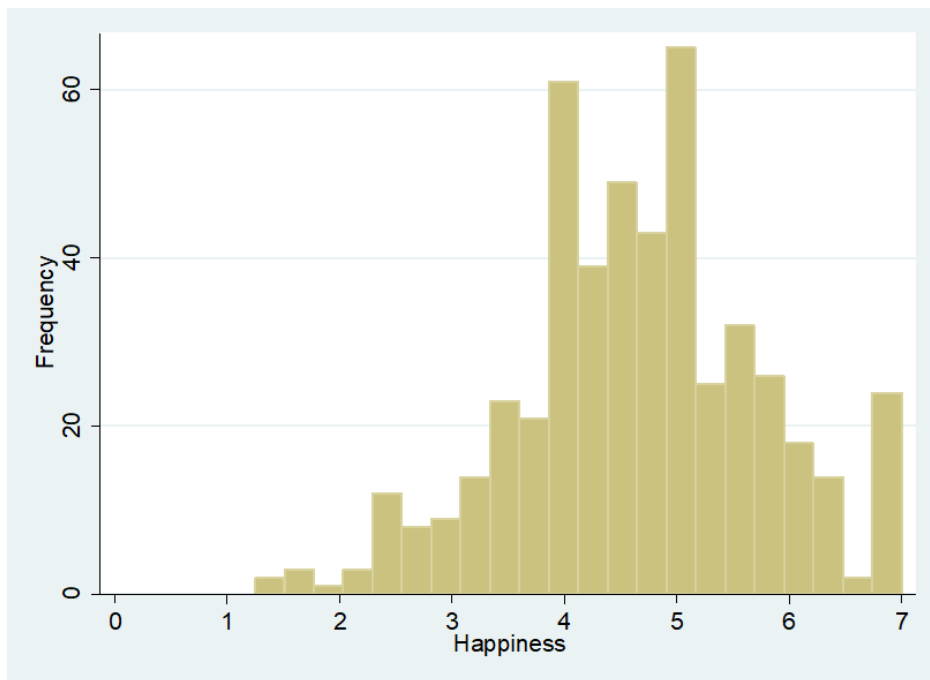


Table.7 Estimated coefficients of the independent variables on happiness in the median regressions

	Happiness		
	Model 1	Model 2	Model 3
<i>Independent variables</i>			
Mismatch (Base group = Match)			
Both-side Mismatch	-1.75 *** (0.225)		-1.560*** (0.253)
One-side Mismatch	-1.00*** (0.201)		-0.515** (0.226)
Other	-0.75*** (0.101)		-0.493*** (0.119)
Perception for future planning (Base group = No perception)		0.687*** (0.094)	0.407*** (0.108)
Inquisitiveness		0.023*** (0.004)	0.019*** (0.004)
<i>Sociodemographic factor</i>			
Gender (Base group = Female)		0.064 (0.096)	0.055 (0.102)
Age		0.010* (0.006)	0.007 (0.006)
Age square		0.001** (0.0006)	0.001* (0.0007)
Household income		0.050 (0.049)	0.031 (0.053)
Education		0.001 (0.042)	0.010 (0.045)
Family structure (Base group = Extend family)		-0.012 (0.137)	0.105 (0.146)
Sample size		494	

***1%有意、**5%有意、*10%有意